



第36号

芽吹いた気持ち、繋がる出会い

アート展とかかわりあえる環境

先日6月22日から7月12日の間、イクスピアリに於いて“地域活動支援センターとも”が「イクスピアリ“私の街”ギャラリー」に出展させていただく機会を得ました。いつも何かとお世話になっている浦安市の市民活動支援センターさんが“とも”さんならアトレで行っているアート展をしっかりと運営されているから」とおっしゃっていただきご推薦くださいました。このようなお話をいただくことができたのも「出会い」と「環境」にあると思っています。

地域活動支援センターともにはフリースペースの今川センターと、昼はリサイクル、夜はお食事処である駅前センターほっぷという二つの拠点があります。その駅前センターほっぷの目の前にある大きなショッピングセンター「アトレ新浦安」で5年前に副店長をされていた方が、いつもほっぷの前でチラシを配っているT君、Eさんと仲良くなりました。T君には知的障がいがあり、調子の良くないときには挨拶が難しいこともあります。Eさんは重度の心身障がいがあり、会話を言葉で交わすことは難しく、意思はおもに表情や目、言葉にならない音声で伝えます。(日頃からかかわりのある介護者や必要な時間など環境が許せば文字盤などで言葉を選ぶこともできますが、私たちと同じようなスムーズな会話はできません)

そういう障がいを持ちながら仕事に励んでいるふたりと、副店長は会う度に気さくに「会話」をするようになっていました。

そんなある日、彼らが今川センターで描いた作品をほっぷで販売しているのを見て、アトレ新浦安での展覧会開催を申し出てくれたのです。こうして2人展から始まった「浦安アウトサイダーアート展」は今年の8月

には8回目の開催になり、彼ら以外にも多くの障がいがある方たちの作品が展示されるようになりました。

T君のなにげない(彼にとっては努力がいる)挨拶から始まった関係は、副店

長の「互いをもう少しわかり合いたい」という気持ちを生み、そのことがやがて作品を目にすることにつながり、彼の心に何か種子のような物を残したのでしょう。その心に植えられた種が、思いもよらなかったことですが現在に続く広がりを生みました。

ただ、副店長のように自然に「理解し合う機会を持とう」と考える人は、残念ながらまだまだ多くはないようです。

言葉を発することができないEさんの想いや意見は、一緒にいる家族や支援者が代弁をします。しかし、それに対して「本当にそう言っているのか?」(つまりしゃべれるの?)と本人や関係者がいないところで言われていることを最近知りました。自分のコミュニケーションの流儀しか信じて、それと違う方法については確かめもしないことは残念だと思います。

今年2月に浦安市文化会館で催された東田直樹さんの講演会のアンケートを読む機会がありましたが、感動を伝える感想の他、「質疑応答に答える東田さんの姿を実際に見たから彼の書いた文章が彼の言葉であると信じる事が出来るが、落ち着きを失って飛び跳ねる彼の姿と、彼が書いたという文章だけを見せられただけでは信じがたかった」という意見もありました。

自閉症の東田さんが見ている世界を、彼の声で伝えてくれることで得た感動は、自分とは同じような話し方や行動をしない人の中にも、実はたくさんの想いや言葉があるという気づきになったのではないのでしょうか。できれば私たち「健常」と言われる側はそこにとどまらず、感受性のアンテナをもっと高く掲げていたいものだと思います。

多様な人がいて、ひとり一人がそれぞれ伝えたい想いがある。当たり前なことかもしれないのに、ふだん見落とされがちな感性は、きっと、障がいがある人もない人もともに出会い、関係を持てる環境の中でより育っていくような気がします。

理事長 西田 良枝



地域福祉と私

私は、ともに入社して7年目を迎えました。その間に様々な新しい事が始まり、いろいろな形で障がいを持った方たちと関わっています。

入社した頃は、福祉について右も左もわからない状態と言っているほどで、とにかく日々必死に介助を覚え、行っていくというような状態でした。その為、自分がどのような役割を担っているのかということに焦点が行っていなかったと思います。しかし、何年も働いていく中で自分がどのような役割を担っているのかということを度々考えるようになりました。

ともが理念として掲げている『障がいがあってもなくても誰もが住み慣れた地域でともに生きる社会』というのを実現するべく、私たちスタッフはいろいろな形で日々サービスを行っています。その中で私が所属している部署は、利用者さんの自宅に訪問し、食事や入浴、排泄や就寝介助、また外出の支援をしています。これは、私たちの理念を実現する為に必要なことであり、望むのなら誰もが生まれた場所や住み慣れた地域で生きていくという大事な部分です。本来ならば当たり前のことですが、それが出来ていないのが現状です。それをなくす為にも私たちスタッフは利用者さん一人ひとりの希望に沿ったサービスを提供しています。

実際、私が関わっている利用者さんたちはサービス

を利用することで、ライブに行ったり旅行に行ったりと誰しもが普通にしていることをしています。こういうことは施設ではなかなか難しいことであり、地域で暮らしているからこそ出来るものではないかと思えます。そのような自分のしたいこと、自分のペースでの生活を送れるようにというのが地域福祉ではないかと思えます。障がいがあったとしても、少しの工夫をすれば様々な場所へ行けますし、私たちのような支援者がいることによって一人では不可能なことでも可能に出来ます。

この仕事をしていて一番に思うことは、障がいがあってもなくても何ら変わらないということです。ただ、少し手助けが必要なだけであり、それを支える人がいるというだけだと思います。また、そのことを担っているとともに入社したことにより、それをより一層感じています。これからも、誰もが住み慣れた地域で暮らしていけるような社会を実現する為に、スタッフ一丸となってサービスを行っていきたいと思います。一人ひとりが自分らしく生きていけるような社会が、当たり前になるように。



自立支援協議会報告

【浦安市自立支援協議会について】

平成27年4月1日から浦安市自立支援協議会は、平成29年3月31日までの任期で新たな委員により運営されます。新しい委員の方が多いことから、各部会共通の議題として平成27年度と28年度の運営と年間計画がありました。

また、今年度、基幹相談支援センターの運営事業者の公募があるため、「基幹相談支援センターの機能」について、委員の皆さんからご意見を伺いました。

【自立支援協議会】

平成27年5月21日に開催。今年度から始まる新しい事業、(仮称)グループホーム猫実、知的障がい者緊急時支援事業について事務局から説明があり、重度障がい者医療助成が平成27年8月から償還払いから現物給付(受診券による受診)に変更されるとの情報提供もありました。

基幹相談支援センター平成27年度事業計画の説明を行いました。

【権利擁護部会】

平成27年6月4日に開催。「平成26年度虐待防止センター実績報告」「平成26年度成年後見制度実績報告」「障害者差別解消法施行に向けた取り組み」についての報告が行われました。

参加された委員からは、成年後見制度や虐待などの大きなテーマだけではなく、地域の様々な立場の委員が参加していることから、各々の立場で感じた障がいのある人たちとの関わり、小さな疑問や問題点を議題として取り上げて欲しいという意見が出ました。

【こども部会】

平成27年6月10日に開催。青少年サポート事業について、こども未来共生会の中島理事長から説明がありました。

委員からは、子どもたちの学校環境をより良くするために、学校と青少年サポート事業の迅速な連携を希望するとの声が寄せられました。

【地域生活支援部会】

平成27年6月11日に開催。就労支援センターの平成26年度実績の報告の後、(仮称)グループホーム猫実などの平成26年



“ふあり”が継続した発達支援を提供します!!

～ふありの新プログラム

“運動遊びグループ” & 保護者グループを紹介します!!～

お母さんや子どもたち本人からも「かけっこがなくて」「のぼり棒がのぼれない!!」

「鉄棒ができない」などなど、運動に関して苦手意識をもっている話をよく聞きます。

学校の体育の授業で行うこともあれば、休み時間や運動会などで、思うようにできない経験をしている子ども達が多いのかもしれません。

ふありでは、月1回、第1土曜日に新しいプログラムとして“運動遊びグループ”を行います!!

運動はひとつひとつの種目の練習も良いかもしれませんが、身体全体を使って運動機能のレベルアップをはかることが大切です。手の使い方、バランスのとり方、腹筋背筋の強化などを少しずつ行い、運動する楽しさやできるようになる過程を一緒に共有し、目的達成にむけて積み重ねていきたいと考えています。月1回の開催ですが、参加する皆さんのニーズを聞き取りながら、長年サッカーを続けてきているスタッフや必要があれば機能訓練のスタッフとも連携を取り、身体の使い方にも焦点をあてていきます。出来たときに感じる達成感と自信をみんながもてるように、そして「運

動って楽しい」と感じてもらえるプログラムにしていきたいと考えています。

そして、同じく第1土曜日の午前中には、保護者グループを開催しています。

「同じ障がいや、遅れのある子どもを持つお母さんとお話する機会がない」「こんなときみんなどうしているんだろう?」「就学にむけて、いつから動き出せばいい?」などお母さんやお父さんがわからないこと、知りたいことなどを会議ではなく、おしゃべりする形ですすめています。入園や入学を控える時期は不安なことも多いけれど、先輩の話を少し聞くことで実際に行っておくと良いことなど、具体的にみえてくることもあります。話すことが苦手でも、大丈夫です!まず参加してみてくださいね。

ふたつの第1土曜日のプログラム、興味のある方はぜひお問い合わせ下さい!!



度27年度浦安市新規事業についての報告がありました。委員からは、浦安市のグループホームの整備状況や、どんな人が入居できるのか等、多くの質問が挙がりました。

委員からは、制度としては障がいの重い人であっても、外部からヘルパーさんの支援を入れてグループホームで暮らすことも出来るとの情報提供がありました。

その後、昨年からの引継ぎ議題であるヘルパーの不足について、内閣府の実態調査の報告があり、介護人材を増やすために、アンケートを実施する案について事務局より説明がありました。

【相談支援部会】

平成27年6月18日に開催。基幹相談より、相談支援実務者会議活動報告を行い、相談支援実務者会議から発題された

①介護保険サービスと同行援護を利用している方のケアマネジメントの在り方 ②計画相談の意義が利用者さんに浸透していない事について事務局（福祉課）から回答があり、その後、意見交換を行いました。

基幹相談が主催するサービス等利用計画の評価を行うグループスーパービジョンでは、「居住資源の少なさは、保護者の親亡き後の生活イメージの貧弱化につながってしまう。高

齢の保護者の方への支援として、様々な自立生活の在り方がイメージできるような勉強会を行い、具体的な生活イメージを持つためのきっかけづくりが必要ではないか」という意見が出たことを報告しました。

【本人部会】

平成27年6月25日に開催。委員6名の自己紹介のあと、普段のくらしで不自由を感じている事や福祉行政への提案について意見を聞きました。「震災後の歩道の整備が進んでいない。車椅子、白杖を使つての移動に危険を感じるころがある」「移動支援に年間上限時間が設けられていることで、その上限内に消化時間を収めるために、本当は5時間外出したいところ3時間にしたりして我慢をしている」「バスの乗車拒否については何度か電話で苦情を申し入れているが、なかなか改善しない。バスに乗らないと生活がまわらないが、運転手さんの対応によっては、精神的にバスに乗ることを苦痛に感じる」などの意見がありました。



社会福祉法人「訪問の家」見学報告

横浜にある社会福祉法人「訪問の家」は、現在は高齢者福祉なども手掛ける大きな法人ですが、もともとは、重度心身障がい者の方が地域で暮らすための法律もない時代に、学校卒業後も地域で通える場所をと、創設された「朋(とも)」が始まりです。

生活介護事業所「朋」には見学当日は20数名のご利用者がいらっしゃいました。ほとんどのご利用者が気管切開や胃ろう、人工呼吸器の使用など何らかの医療的ケアを必要とする方で、言葉を発する方は現在いないとのこと。広いホールでの朝の会のあとは、5つの作業グループに分かれ、それぞれの部屋で活動。空き缶の回収や、クッキー作り、和紙による製品作りなどの活動を行っているそうです。地域の人とも頻繁に出入りして交流しているとのこと。事業所内に診療所も併設され、ご家族の安心材料となっているとのことでした。

その後ヘルパーステーション「さくら草」で説明を受け、グループホームの見学へ。私が見せて

いただいた「ハイビスカス」は平屋の戸建。閑静な住宅街の中にありました。大変きれいな居室と工夫された設備が印象的でした。



最後に見学したのが、多機能型拠点「郷(さと)」。

ここにも診療所があり、診療、相談、ショートステイ、日中一時などの事業を行い、医療的ケアが必要な方の生活を総合的に支えているそうです。住宅街に馴染む落ち着いたたたずまいの建物が印象的でした。

財政基盤や土地柄の違いも感じましたが、市や事業所、職員が、重度の人達の地域生活を支えようと一丸となって支援をしている様子には感銘を受けました。

ただ、ご利用者の高齢化に伴う課題や、事業が拡大するときに起こる高い質を維持することのご苦労、宿泊に対応できる看護スタッフの確保の問題などのお話もあり、「とも」としても他人事ではありません。

これらの課題を浦安の利点や「とも」の培ってきたスキルを活かしてどのようによい方向に持っていけるか、大変重要な宿題を再認識した見学でした。



介護職員による医療的ケアの推進

当センターは本年7月1日付けで登録喀痰吸引等事業者（登録特定行為事業者）として、千葉県に登録を受けました。当法人では、パーソナルケアセンターと一時ケアセンターに続き3番目の事業者登録です。

障がい重い方でも地域の中で主体的に生きる生活を支援することを目的に当センターで生活介護事業所を開設して以来、2年が経過しましたが、利用

者の方々にも様々な状態変化が現れています。年齢を重ねる毎に自身で出来ていた事が難しくなってきたり、医療的な支援を必要とされる方も増えてきました。看護師は常駐しておりますが、この制度を活用して、スタッフ全員が喀痰吸引等に対



応できることが理想と考えております。当法人は喀痰吸引等の研修機関としても登録されておりますので、今後とも認定特定行為業務従事者を広く養成するため、指導看護師による研修を開催してまいります。



この制度は2012年4月、「社会福祉士及び介護福祉士法」の中の、「介護福祉士等による痰の吸引等の実施に関する一部改正」により、医療的ケア（口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内吸引・胃ろう、腸ろうの経管栄養・経鼻経管栄養）を行う為の研修を受講することにより医師の指示のもと実施が認められ、この認定を受けた者が属し、「医療関係者との連携に関する基準」と「喀痰吸引を安全・適正に実施するための基準」を満たした事業所が登録されるものです。

福祉用具貸与販売事業所より

「パーソナル・アシスタンスとも福祉用具貸与販売事業所」では福祉用具全般に加えて、医療機器なども取り扱っています。

福祉用具や医療機器の貸与販売をする事で、介護保険だけでなく障害福祉の制度の、日常生活用具や補そう具の給付などにも対応しています。平成26年度は添い寝が希望の利用者ニーズにも対応可能な最新型の超低床タイプの電動介護ベッドや、在宅医療での各種機器の提供をする事で在宅生活継続を支援させていただきました。

平成27年度は増員した相談員を含む職員一丸となって、利用者さんが安心して生活を送れるよう地域福祉の増進に更なる貢献していきたいと考えます。



介護保険や障害福祉の利用についての相談、ベッドや車いすなど福祉用具のレンタ

ル、シャワーチェアやポータブルトイレなど介護用品の販売、吸引器や酸素飽和度測定器（SPO2モニター）などの医療機器の販売、手すり取り付け

などの住宅改修。その他、福祉用具・介護に関する事は「パーソナル・アシスタンスとも福祉用具貸与販売事業所」へお気軽にご相談ください。



後援会「ともと歩む会」のお知らせ

こんにちは。長かった梅雨が明け また“暑い夏”がやってきました。お変わりなくお過ごしでしょうか。

今年度も 多数の方から ともと歩む会に ご参加を頂きました。ありがとうございます。

「ともと歩む会」は、市民祭りなど 年に3～4回ほど イベントに参加して 販売等の活動を行っています。

そして 活動と一緒に参加して下さる仲間を募っております。活動を通じて保護者同士、親睦を深めてみませんか？ 短時間でも大丈夫。気軽にお問い合わせください。

「ともと歩む会」申し込み方法

- ◆年会費は 3,000 円です。
- ◆都合上、4月に更新とさせて頂いております。
- ◆4月発行のとも通信に振込取扱票を同封させて頂いております。

口座番号・郵便振込先：00120-0-536557 / 名 義：中田光昭

「とも」を支えてくださる方々

2015.4.1 ～ 2015.6.30 現在 (五十音順・敬称略)



社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも へのご寄付のお願い

社会福祉法人となっても、その財源は今までと何も変わらない現実です。皆様からの寄付は現在行っている社会福祉事業に役立たせていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。なお、「とも」への寄付は、以下の税制上の優遇措置があります。

- ◆個人の方は、所得税に係る「寄付金控除の対象」になっています。
- ◆法人の場合は、一般の寄付金とは別枠で損金の額に算入することができます。
- ◆相続や遺贈によって受けた財産を寄付した場合は、その分は相続税の対象外となります。

寄付金 振込先

京葉銀行 新浦安支店 普通口座 5429331
口座名義：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも
理事長 西田良枝

発行：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも
〒279-0022 千葉県浦安市今川1-14-52
<編集後記>

陽射しの厳しい真夏になりました。屋内にいても熱中症になってしまう事があるそうです。体調管理に気を付けて健康的な夏をお過ごし下さい。 [S]